

発刊にあたって

森林は、清らかな水を育み、これらを源とする幾多の河川は県土を潤し、森林と水は長野県の歴史、文化等の礎となっています。

森林に降る雨は、森林樹冠、森林土壌、基礎岩盤、溪流を流下してゆくため、それぞれの経路の性質が河川の流量変化に大きな影響を及ぼすとされています。また、水質はこの流出の過程において大きく変化するといわれています。

こうした変化のメカニズムはきわめて多様であり、水質形成には森林生態系などの作用が複雑に関連しているといわれています。

そこで、森林と水質について、『森林環境と溪流の水質』と題し、元名古屋大学大学院助教授木平英一博士、信州大学理学部教授戸田任重博士の両氏に基礎情報を取りまとめていただきました。

私たち人類、さらには全ての生物にとって最も重要な水と、清らかな水を育む森林をこれからも健全な姿で守り、次世代へと引き継いでい行くことが大切であります。

森林・林業ならびに森林環境学習に携わる指導者、学生の皆さんなど、多くの皆様にご活用いただければ、たいへん幸甚の極みでございます。

平成19年（2007年）5月

社団法人 長野県林業コンサルタント協会

理事長 宮原 毅